

## 1. 61年度総会、講演会等

教室にとってすでに年中行事のひとつに数えられているお茶の水地理学会総会、講演会等は、5月10日（土）に開催された。

まず、午後2時から総会が一般教育2号館102号室で56名の出席のもとで開かれた。はじめに、仮議長の栗原尚子氏（16回生、教室助教授）の進行により鈴木陽子氏（14回生）を議長に選出、議事に入った。まず、浅海重夫総務の開会挨拶があり、続いて式正英庶務委員による60年度事業報告、及び三上岳彦会計委員による60年度決算報告があり、いずれも承認された。次いで浅海総務から新入会員の紹介及び会員状況についての説明があり、会員総数が482名と、500の大台に迫ったことが明らかにされた。また、61年度事業計画案について式企画委員から、61年度予算案について三上会計委員から説明があり、いずれも承認された。また、今年度は役員交代時期にあたり、新役員人事案が提案され、これも承認されて総会は終了した。

総会に引き続き、午後2時30分すぎから講演会が開催された。まず、大森（旧姓松崎）正子氏（23回生、結核研究所）の「結核問題の地域格差の変遷とその要因分析」と題する発表があった。大森氏は本学修士課程では土壌の生成条件を研究テーマに選んだが、同課程終了後結核問題研究に転じ、すでに該分野でも幾つかの研究成果を発表しており、今回の発表は、結核罹患者の地域的分布とその年代別推移を統計的手法を中心に分析し、その要因を考察した内容のものであった。やや医学的専門に偏った研究であるが、都市化その他の地理的要因を他分野に導入した事例として興味深く、地理学的研究の有効性について考えさせられた。本号論説に当日の発表内容が掲載されているので参照されたい。続いて浅海重夫教官が「硫黄島の現況」と題する発表を行なった。ここでは富士火山帯に属する硫黄島の火山活動と隆起など地形変動の問題、島の生活、産業の歴史について、そして現在の自衛隊基地化と旧島民の帰島問題など、この島のもつ自然と人間の多岐にわたる側面が多数のスライドをまじえて解説された。東京都に属しながら一般人には立ち入れない亜熱帯の硫黄島のもつ諸問題が明らかにされ、発表後多くの質問があった。以上で学会行事は無事終了し、そのあと午後5時30分から大学東門前レストラ

ン「吉夢羅」を会場に恒例の懇親会が開かれ、39名が参加した。まず浅海重夫教官挨拶のあと、先輩会員和田明子氏の音頭で当日の学会行事の盛会を祝すと共にお茶の水地理学会の一層の発展を祈念して乾杯した。その後は教官、先輩、後輩入りまじって賑やかに歓談を楽しみ、それも一段落した頃、例年通り参加者全員が自己紹介と近況報告を行い、各人の職場や家庭での活躍の状況、研究の成果等も披露され、楽しく有意義な一刻であった。予定の2時間はまたたく間に過ぎ、名残りは尽きなかったが浅海教官の閉会の辞で一年後の再会を約してお開きとなった。

## 2. 談話会

今年度談話会（通算第55回）は、11月29日（土）午後2時から開かれ、三上岳彦氏（地理学科助教授）が昭和60年度における南米海外学術調査の報告として、「赤道アンデス地帯の自然」と題して講演した。はじめに調査テーマである1980年代初の南米ペルー沖にあらわれたエルニーニョ現象に関する紹介があったが、豊富な資料によって今世紀最大規模といわれる同現象の実態が明らかにされた。

続いてペルー、エクアドルにまたがる現地調査において撮影されたスライドが百枚以上映写されたが、エルニーニョ現象がひきおこした異常降雨による被害のすさまじさや、人々のくらし、それを支えるアンデスの自然は参会者に深い感銘を与えた。講演終了後引き続き教室でビアパーティが催され、晩秋の一刻を和やかな交歓ですごした。

## 3. 見学会

見学会は4月12日（土）、滝沢由美子氏（14回生）の案内で、都下清瀬市をフィールドとして行われた。当初予定していた国立療養所東京病院と気象衛星センターの見学は、都合により中止となったが、大学南門を出発した貸切バスは、まず清瀬市郷土博物館へ向かい、前館長の小峰勇氏らの温かいもてなしを受けた。昼食のため平林寺で休憩したのち、一路三芳町公民館へ向かった。地籍図、村絵図等を閲覧し、さらに上富小学校屋上から三富新田の景観を一望した。校門脇に咲く満開の桜の下で、参加者一同（19名）は記念写真に収まったあと、開発当初の旧家である島田家に立ち寄り、熱心に聞き取り調査を行なった。近郊都市、清瀬市の性格を垣間見ることが

できた見学会は、天候にも恵まれ、和やかなうちに散会となり、バスは東京へと帰路についた。

#### 4. ニューズレター発行

今年度は予定通り第9, 10号がそれぞれ6月, 1987年1月に発行された。6月発行の第9号は主に総会事項をはじめとする学会の諸行事, 計画, 会員動向, 61~62年度新役員等の記事で埋められたが, 今年1月に発行の10号には, 昨年11月に新たに情報学担当として地理学科に迎えた久保幸夫教官(新会員です), 10カ月の在外研究を終えて昨年7月帰国の内藤博夫教官, 及び新たに桜蔭会常任理事に就任の貝山久子氏から寄せられた原稿が掲載された。

#### 5. その他

- (1) 昭和62年度総会, 講演会, 懇親会は5月9日(土)午後2時から例年通り開催の予定である。多数のご出席をお願いしたい。
- (2) 会員数(昭和61年5月10日現在)  
学部卒業生会員361名(卒業生485名のうち)

大学院・専攻科修了会員11名(修了者20名のうち)

学生会員 85名

教官会員 (除卒業生会員) 5名

特別会員 20名 (会費免除会員6名を含む)

#### (3) 役員(昭和61~62年度)

総務 井内 昇

企画 浅海重夫・三上岳彦・和田明子・瀬戸玲子・木曾久子・東山セツ子・向後紀代美・二瓶直子・村松晶子・室伏朝子

編集 井内 昇・内藤博夫・阪口陽子・佐藤由子・岡田久美子・武田むつみ・河井みどり・渡辺真紀子・小笠原洋子

会計 式 正英・厚井和子・滝沢由美子・渡辺真紀子・新保彰子

庶務 三上岳彦・栗原尚子・小野美代子・金子晶子・鈴木陽子・渡辺真紀子・菊池美千世・浜うらら

## 会 員 消 息

## 地理学教室動向

新任教官の着任：一般教育教官の増員措置に伴い、情報学担当の専任教官のポストが地理学科に配属され、久保幸夫講師（元東京大学理学部助手）が11月から着任した。

今年度における専任教官の担当科目：浅海重大教授（地質学，土壤地理学，日本地誌Ⅱ，自然地理学実験Ⅱ，地理学演習Ⅱ，大学院自然地理学特論および演習），式正英教授（地形学Ⅰ，同Ⅱ，地誌学，地理学演習Ⅲ，大学院地誌学特論および演習），井内昇教授（地理学概論，集落地理学，都市地理学，外国地誌Ⅲ，地理学演習Ⅰ，大学院人文地理学特論および演習），内藤博夫助教授（経済地理学Ⅰ，地理学概説，日本地誌Ⅰ，地理学演習Ⅲ，大学院地誌学特論および演習），三上岳彦助教授（気候学Ⅰ，同Ⅱ，地図学，自然地理学実験Ⅰ，地理学演習Ⅱ，大学院自然地理学特論および演習），栗原尚子助教授（社会地理学，外国地誌Ⅳ，地理調査法，地理学演習Ⅰ，大学院人文地理学特論および演習），久保幸夫講師（一般教育情報学）。

非常勤講師の担当科目：山本茂埼玉大助教授（経済地理学Ⅱ），江波戸昭明大教授（文化地理学），滝沢由美子

（写真地理学），鈴木陽子（地図学演習），宮脇昭横浜国大教授（植物地理学），和田明子都留文科大教授（地理学特講Ⅰ），二瓶直子（地理学特講Ⅲ）。太田勇東洋大教授（大学院地誌学特論Ⅴ），高阪宏行日大教授（大学院人文地理学特論Ⅴ），野上道男都立大教授（大学院自然地理学特論Ⅴ），西川治立正大教授（大学院地誌学演習Ⅰ），中村和郎駒沢大教授（大学院地誌学特論Ⅲ）。

海外出張・研修：内藤助教授は前年度からアメリカおよびイギリスに10カ月間，文部省在外研究員として出張し，昭和61年7月29日に帰国した。栗原助教授は地中海地域の比較研究のためスペインへ，8月3日から10月13日まで研修旅行をした。

式教授は本年度から附属高校長に就任した。その他学内の主な委員：井内教授（評議員），三上助教授（入試方法検討委員）。

井内教授は62年度から附属小学校長に就任する。渡辺真紀子助手は本学大学院博士課程に復学するため61年度末をもって職を辞し，かわって62年度から浜野桂子氏（修士61年度修了）が助手に就任することになった。